

ひょうご

職親会だより

1999. 9 第5号

平成11年度 総会 を 経 て

兵庫県精神保健職親会

会 長 森 本 稔

(森本鐵工株式会社)

ごあいさつ

猛暑が続き、お盆休みを自然の中でと、キャンプを張り、集中豪雨による事故等々の悲しい報道や、精神障害者と思われる幼女傷害事件、作業所の設立に地域住民の反対等、暗いニュース、遅々として進まない景気回復、力のない者の淘汰が日常なんらの感慨もなく進んでいる等、自信のもてない世相、抑うつ状態の昨今です。

しかし、職親さんは皆頑張っておられると拝察します。

過日、兵庫県農業共済会館に於いて平成11年度総会を開催、皆様方のご協力で無事終了しました。

1年をふりかえる機会ともなり、参加された会員さんからの具体的な提案もいただきました。また、本年の事業についても、積極的に参加いただくことをお願いしました。

昭和47年、県単位で職親制度が生まれ、昭和57年「通院患者リハビリテーション」事業として、また、平成7年現行法による「精神障害者社会適応訓練事業」と位置づけられて、今日に至りました。

職親会も、昭和56年頃から他府県で設立されるようになり、本会も遅れ馳せながら、平成9年に設立できました。

行政的にも、3障害の1つとして取り組まれておりますが、関係者からは異口同音「精神障害者については、未だ未だですね」「遅れていますね」という言葉が出ます。

これから、各方面から実効のある支援が期待さ

れるところであります。

その一端を担うと自負しております職親会の今後の運営、研修目標についても、幅広い意見、関係機関の指示等々が反映されたものにならなければならぬでしょう。

全国精神保健職親会の会議の内でもよく議題になります現在の保健医療リハビリテーションの理論、技法の一層の研修は勿論ですが、職業リハビリテーションへの具体的な制度学習と、ハローワークの障害者担当との交流、窓口の専門官配置等をお願いすることになると思いますが、これからの課題でしょう。

以上、思いつくままに記述しましてまとまりのない文章になりましたが、課題山積の中一つずつ関わりをもって、進めていく必要があります。

皆様方の英知と行動力の結集を心から期待申し上げます。

以上、総会後に関連します思いを申し述べ、今後、共に皆様方の御理解御協力を重ねてお願いし、御挨拶とします。

初 秋 や

頭 巾 新 た に

地 蔵 尊

森 本 稔



1999. 9
精神障害者
社会復帰訓練制度

去る平成11年6月7日(月)、平成11年度兵庫県精神保健職親会総会が、会員11名、関係者64名の出席を得て、行われました。(於： 兵庫県農業共済会館)

平成10年度事業報告

事業名・年月日	場 所	内 容
1 定期総会及び講演会 10. 6. 4 (木)	神戸市生活学習センター	総会及び講演 ◆講 演 「私が精神障害者と精神保健職親会に学んだこと」 《講 師》 元障害者職業総合センター研究員 野中 由彦 *参加者：56名(職親12名/関係者44名)
2 研修会の開催 ・豊岡保健所職親 交流会と合同 10. 11. 13 (金) ～ 14 (土)	兵庫県立城崎大会議館	テーマ『ともに生きる』 司 会 理 事 細見 勝 ◆講 義 「それぞれの回復」 《講 師》 公立豊岡病院精神科医師 波床 将材 ◆話題提供 「就労の実際」 豊岡公共職業安定所就職促進指導官 山根 浩美 ◆話題提供 「職親になってよかったこと、困っていること」 副会長 西村稜威雄 *参加者：36名(職親12名/関係者24名)
・社会復帰事業関係者 研修会と合同 11. 3. 12 (金)	兵庫県農業共済会館	◆講 演 「生活支援から街づくりへーやどかりの里の実践を通してー」 《講 師》 やどかりの里理事長 谷中 輝雄 ◆全体討議 《助言者》 谷中 輝雄 《司会者》 アメニティーホーム夢野指導員 中村 陽二 精神保健福祉センター主任専門員 阿部 政博 *参加者：182名(職親6名)
3 役員会の開催 10. 5. 8 (金) 10. 8. 21 (金) 10. 11. 13 (金)	精神保健福祉センター 精神保健福祉センター 城崎大会議館	第1回役員会 *参加者：12名(役員6名/関係者6名) 第2回役員会 *参加者：11名(役員6名/関係者5名) 第3回役員会 *参加者：11名(役員6名/関係者5名)
4 広 報 普 及 10. 6. 27 (土)	神戸市生活学習センター	「神戸・東播・淡路地区精神保健福祉研究会」 (兵庫県精神障害者家族連合会主催) パネラー 森本 稔 (会 長) 「精神保健ボランティアグループいずみ研修会」 講 師 森本 稔 (会 長) 「家族教室」 講 師 森本 稔 (会 長) 「精神家族会及び管内通リハ事業所連絡会」 講 師 森本 稔 (会 長) 「家族教室」 話題提供 高嶋 秀忠 (監 事) 「さわやかライフ」 出 演 森本 稔 (会 長) 高嶋 秀忠 (監 事) 高嶋 秀忠 (監 事)
10. 7. 18 (土)	神戸市民福祉交流センター	
10. 8. 17 (月)	社保健所	
10. 10. 14 (水)	福崎保健所	
10. 10. 27 (火)	三木保健所	
10. 11. 7 (土) 放映	サンテレビジョン	
11. 2. 25 (木)	和田山保健所	
5 情報提供 10. 7 11. 1		「ひょうご職親会だより」第3号発行 「ひょうご職親会だより」第4号発行
6 全国職親会への協力 10. 7. 20 (月) ～21 (火)	ハートピアきつれ川	役員会及び総会 出席 「精神障害者社会適応訓練事業研修会」参加 西村稜威雄 (副会長)
11. 2. 5 (金)	全国恵友記念会館	役員会 出席 森本 稔 (会 長)
11. 3. 26 (金) ～27 (土)	国立精神・神経センター	「第10回精神保健職親研究会」参加 森本 稔 (会 長) 上川 雄吾 (監 事)

〔参考〕 兵庫県精神保健職親会会員
賛助会員
精神障害者社会適応訓練事業協力事業所数

62事業所
92名(84口)
189事業所

内 訳

	事業所数	うち稼働している所	職親会会員
兵 庫 県	158	91	52
神 戸 市	31	14	10
計	189	105	62

(平成11年4月1日現在)

平成10年度収支決算書

(収入の部)

単位:円

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
年 会 費	189,000	108,000	△81,000	3,000×36事業所 (平成9年度:5事業所、 平成10年度:31事業所)
賛助会費	121,000	84,000	△37,000	1,000×84口
委 託 費	273,000	546,000	273,000	兵庫県
寄 付 金	1,000	0	△1,000	
雑 収 入	21	81	60	預金利子ほか
前期繰越金	21,859	21,859	0	前年度から
計	605,880	759,940	154,060	

(支出の部)

単位:円

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
講師謝金	80,000	69,000	△11,000	記念講演会 20,000 研修会(2回) 49,000
旅 費	215,000	201,460	△13,540	全国研修会 88,000 役員会(2回) 43,080 講師旅費 40,000 渉外など 30,380
会 場 費	40,000	14,880	△25,120	講演会会場 13,200 研修会会場 1,680
通 信 費	62,880	94,560	31,680	切手
事 務 費	153,000	195,483	42,483	だより印刷(2回) 用紙、封筒、印鑑、 写真現像ほか
予 備 費	55,000	63,579	8,579	全国職親会費など
次期繰越金	0	120,978	120,978	次年度に繰り越し
計	605,880	759,940	154,060	

上記のとおり相違ないと認めます。

平成11年3月31日

監事 高嶋 秀忠 ㊟

監事 上川 雄吾 ㊟

役 員 名 簿

役 職	氏 名	事 業 所 名
会 長	森 本 稔	森本鐵工株式会社
副会長	西 村 稜威雄	西村商店
〃	石 井 建 三	イシイリネン株式会社
理 事	米 口 守	有限会社米口グリーンナーセリー
〃	細 見 勝	伸和青果食品株式会社
監 事	高 嶋 秀 忠	高嶋園芸
〃	上 川 雄 吾	株式会社金森商店



平成11年度事業計画

- 1 定期総会及び講演会
- 2 研修会の開催(年2回、内1回は
県立精神保健福祉センターとの共催)
- 3 役員会の開催(年3回)
- 4 広報普及
- 5 情報提供、ひょうご職親会だより発行
- 6 全国職親会への参加並びに連携
- 7 会員の増強
- 8 各種団体との連携
- 9 その他

平成11年度予算書

(収入の部)

単位:円

科 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増 減	備 考
年 会 費	186,000	189,000	△ 3,000	3,000×62事業所
賛助会費	84,000	121,000	△37,000	1,000×84口
委 託 費	546,000	273,000	273,000	兵庫県
寄 付 金	1,000	1,000	0	
雑 収 入	22	21	1	預金利子ほか
前期繰越金	120,978	21,859	99,119	前年度から
計	938,000	605,880	332,120	

(支出の部)

単位:円

科 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増 減	備 考
講師謝金	150,000	80,000	70,000	講演会 100,000 研修会 50,000
旅 費	375,000	215,000	160,000	講演会・研修会講師 50,000 全国研修会 50,000×2人×2回 役員会 25,000×3回 渉外など 50,000
会 場 費	70,000	40,000	30,000	総会・講演会 50,000 研修会 20,000
通 信 費	93,560	62,880	30,680	総会・研修会 80×146人×5回 情報提供 270×62人×2回 役員会 80×7人×3回
事 務 費	154,440	153,000	1,440	消耗品(文具、コピーなど) 印刷代(ひょうご職親会だより) 全国職親会報
分 担 金	40,000	0	40,000	全国職親会費
予 備 費	55,000	55,000	0	
計	938,000	605,880	332,120	

精神障害者の雇用促進に 向けての動きについて

兵庫県健康福祉部障害福祉課

課長 兼 井 孝 政

兵庫県が「職親制度」として就労の場で社会復帰訓練を開始したのは昭和47年6月、翌7月に現職親会長の森本鐵工(株)を協力事業所第1号として登録しました。その10年後の昭和57年に厚生省の通院患者リハビリテーション制度が開始されましたが、現在、兵庫県では登録している職親は167事業所あり、173名の訓練生が訓練を受けています。

一方、職業安定所関係(労働省)の事業として、「職場適応訓練」「障害者雇用給付金制度による助成金(以下「助成金」)」及び「特定求職者雇用開発助成金(以下「給付金」)」がありますが、いずれも歴史は浅く、利用者も少ないものでした。

平成9年に法改正がなされ、給付金や助成金の対象者が精神保健福祉手帳の所持者に拡大されるとともに、精神障害者については週20～30時間の短時間勤務も対象者となりました。さらに、助成金については、通院リハの訓練終了後に引き続き協力事業所(職親)に雇用される場合も対象となりましたが、精神障害者の就労については、身体・知的障害者に比べて遅れている状況にあります。

しかし、今年度から兵庫県において病院等に出向いて就業意識の啓発を図る「精神障害者ジョブガイダンス事業」を新規に開始するとともに、労働省では「精神障害者の雇用の促進等に関する研究会」を本年9月に発足させ、平成14年3月を目処に、①精神障害の特性に応じた就労形態、②精神障害者の雇用管理に関する配慮事項、③精神障害者の就業・生活に対する支援のあり方など多方面にわたる研究をし、雇用・就労機会の拡大を図ることとしているなど、大きな動きを見せています。

これらの研究や事業を進めていくなかで、先駆的な事業所として職親会の皆様に何かと御協力いただきたく願いますとともに、精神障害者の雇用促進に光が見え始めたことに、大きな期待をよせています。

ご あ い さ つ

兵庫県立精神保健福祉センター

所長 鶴 林 泉

初めまして。本年4月に思いもかけず、杉浦前所長ご退職のあとを引き継ぐことになり、もうすでに半年を過ぎようかという時期になっても、未だ落ち着かず、周囲にご迷惑をおかけしている次第です。ともあれ、日頃から精神保健福祉センターのさまざまな活動に、ご理解とご協力をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げますと共に、兵庫県精神保健職親会の事務局として今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、この職親制度は今から30年以上も前に、病院の院外作業として各事業所にお世話になったことに端を発するとのことですが、現在では、精神障害者社会適応訓練事業として、精神保健福祉法に明確に位置付けられ、障害者プランにおいても具体的な目標設定がなされ、精神科リハビリテーションにおける重要な役割を担う制度として、今日に至っています。

「職親」という用語は、公式には使われないようですが、おそらく、そう呼ぶ方がふさわしいように、事業実施要綱などには現れない、事業主の方々の大変な熱意とご苦労の上に成り立っているものと思っております。

また、心の病を持つ人々と共に働くということが、一般の人々にとって、この病気に対する誤解や偏見を解き、正しい理解を得るまたとない機会にもなっており、そういった面での役割も果たしています。

平成13年には、厚生省と労働省が統合され、精神障害者の雇用支援についても新たな展開が予想されますが、保健医療の枠組を越えて、広く精神障害の特性に即した職業リハビリテーションへの発展を期待しております。

兵庫県の職親会が設立をされて2年になりますが、今後さらにご理解をいただける事業主の方々が増え、また全国の職親会との連携も図りながら、ますます発展をされますことを心からご祈念申し上げます。

職親会へのおさそい

本会は、精神障害者の社会復帰および社会参加を援助するとともに、正しい精神保健福祉に関する知識の普及を図るために、会員相互の情報交換、研修などを通じて資質の向上に努め、かつ会員相互の親睦をはかることを目的としています。

会 費 年額 3,000円

賛助会費 年額 1口 1,000円

振込先:郵便振込 口座番号 00910-0-165917

さくら銀行神戸駅前支店 普通 313-6918374

名義人 兵庫県精神保健職親会 代表 森 本 稔

入会については事務局までお問い合わせ下さい

事務局 兵庫県立精神保健福祉センター

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2-1-29

(TEL) 078-511-6581 (FAX) 078-511-6585

今回の講演では、全国高等学校駅伝競走大会において、7回の優勝を果たし、現在まで4連勝中で、平成9年度には日本高校最高記録を更新し、日本オリンピック委員会強化スタッフスポーツコーチとして、数々の有名選手を育成している高等学校駅伝界では名高い監督渡辺氏のところを大切にしたい選手の育成強化方法をたっぷり聞かせていただきました。

「心のたすきリレー」

兵庫県立西脇工業高等学校陸上部監督
渡辺 公二氏

皆さんこんにちは。ただ今ご紹介に預かりました西脇工業高校で保健体育を担当し、陸上競技部の顧問をさせていただいております渡辺でございます。西脇工業高校にお世話になりまして、32年目になるわけですが、昨年を持ちまして、31年間の一応教員を退職いたしまして、現在は講師という形で授業を13時間で、陸上競技部の顧問をいたしております。(中略)

部活で生徒に、学校の校則、規則、規律、授業中の先生の話、どんな話でも目で聞くという、心で聞くということは大切ではないかと言ってきました。顔や耳じゃない、目で聞いたことは絶対に心に残るから、一生忘れないと思うので、スポーツであれ、学業であれ、将来の進路の悩みであれ、私は目で聞くということを、常に生徒に話しております。

学ぶということは、勉強もスポーツもそれ以外のことで、素直になるということだろうと思います。大人でもですね、仕事も、学ぶということは素直になることであると思うので、その素直さということを忘れてはならない。

そして、挨拶というのは、ただ礼儀とか、マナーであるから挨拶するんじゃない。毎日近所の方でも学校の中でも挨拶しろと言っています。学校の中で、電気科の生徒は、機械科の先生に一切授業は教わっていませんが、廊下ですれ違ったり、正門に入った時に会ったら「おはようございます」「失礼します」「さようなら」「こんにちは」ということは、はっきりと言えるような子にしないといけないと……。実は陸上を始めたのもそのことが本当の理由であります。(中略)

マラソンは、原始的なスポーツであるので、年中無休の練習が一番効果的であると、こういうくだらんことを私自身当時考えておりました。今は、やっぱり人間の体は限界があることから、心身ともに、精神的な面あるいは肉体的面も休めて、完全に切り替えて他のことをする。例えば、勉強をする、遊びに行く、あるいは家の手伝いをすると、ラジオをつぶしたらラジオの音がでるようにする。テレビのブラウン管に映像が映るようにということをしたり、鉄鋼関係やたら旋盤とか、作品をつくるかということ、切り替えさせてやったほうがいいと思います。今はもう確実に日曜日は完全休養をとらせておりますが、当時は年中無休でやっておったんです。

私が西脇工業高校で、陸上競技をやるきっかけになったのは何でかと言ったら、生徒に最低限、学校の校則、規則、規律、挨拶、責任感、協調性、そういったものを身につけてもらおうと思ったからです。昭和45年、一年目に負けたので二年目からは勝つための練習、勝たせ



るための練習をしてきました。人生の勝利者を作るのか、選手としての勝利者を作るのかといったら、部活動というのは、中学校も高校も大学もそうだと思いますけども、人生の勝利者を作ってやることのほうが、大切であることを忘れていました。ですから、勝つことばかり考えて選手作りをしておりまして、人間作り、高校生を作らなきゃならないのに、人間作りじゃなしに、私は選手作りに走っておったわけです。ですから練習の量をやって質を教えて、技術を教えておりました。心もない、不満を持って、反抗的であって、人の話を素直に聞く気持ちもない者になんぼ素晴らしい、これは学業も一緒ですが、教材研究をして授業をしても部活動を教えても、子供は聞く気持ちがなかったということに気がつきませんでした。やっぱり心を教えなきゃならないということに初めて気がつきました。

粗探しをせずに、『かわいい子には五つ教えて、三つ褒めて、二つ叱ってよき人とせよ』とこれは人間作りの教育の基本だろうと思います。『やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かず』これは大人の世界なんです。いいところ見て褒めてやろうと思っています。不器用でなかなか三重丸もらえない子もいますが、その子の心の働きといいますか、その子の努力しているところに目を向けて、心の働きを見て褒めてやるのが大切ではないかということに私は気持ちを変えていきました。そうすると全員が非常に明るくなりました。

それから東播大会で昭和54年度に勝たしていただいて、まだ負けておりません。24連勝中ですが、今の3年生を見て、「まだ負けなかな」と思います。けども、勝てるという保証もないような気がしておりますけども、負けられないように努力したいと思います。そういう中からやはり褒め言葉が大切です。指導者の姿勢で、生徒のいいところを見て褒めてやり、決して他人との比較はしてはならないです。

練習とは苦しみに耐えることです。その苦しみから逃げる者は、永久に苦しみに追われるというふうに思いま

す。けれども、どんな苦しいことでも、目標・目的を持っておったら我慢できるし、楽しくもある。人間は苦しいときこそ成長のステップではないでしょうか。楽な時よりも、楽しい時よりも、苦しい時に成長がある。逃げずにやっぱりそれに向かっていくということが大切じゃないかなというふうに私自身が考えております。今は粗探しをせずに、生徒のいいところを見て、褒めることです。学習の量、学習の成績、絵の技能、運動能力、またその子の努力している過程とかを、お父さんお母さんから着目され、先生から注目・着目された時、そして友達から仲間として受け入れられた時に子供は自信を持ち、絶対に私は非行はないというふうに考えております。

最後になりましたが、生徒に試合に臨ませる場合に、何を最後に生徒に話をしたらいいのかをお話しします。「負けたら承知せえへんぞ」とか「負けてもいいからな」ということは心理的にも負けるということです。それで20年ほど負けてきました。一番いいのは、一つの目標タイムを持って生徒に試合に臨ませるわけですが、それに近いタイムかそれを突破できればなおいいなという

ようなことを生徒に話しをすること。そして次の言葉が非常に大事なんです。「勝たなくてもいいよ。負けないよう走れ。」と、生徒の気持ちを楽にさせるために言ってるわけですね。心臓とか、肺の機能とか、脚力で、相手に勝つことは難しい時、それを乗り越える相手に勝つためには、最後は心で勝たなければならないので、心をしっかり鍛えてもらったらいいと思いますね。

試合のときに、心というのがやっぱり最後に、安定した状態でなければならないです。生徒には常にマナーということをして、試合で走れなかった部員45名の者の心を含めて、兵庫県224校の生徒の気持ちを一つにして、1区の者の心に託して、暖かい心を、たすきを渡すように、心を2区、3区、4区、アンカーに渡してもらってゴールインしたら結果はいいです、それが「心のたすきリレー」です。

来年も精一杯頑張りたいと思いますけども、勝てないかもしれませんが、負けないようやりたいと思いますので、またひとつよろしくをお願いします。

文責：事務局

職親になって思うこと

兵庫県精神保健職親会

理事 細見 勝

(伸和青果食品株式会社)

弊社は青果物、鶏卵を主に卸売り業とミニ食品スーパーを五店舗経営しています。当事業所に来て頂いている方は現在二人居られますが、二人共鶏卵の洗卵選別（GPセンター）の仕事に従事して頂いています。

二人共男性で現在通院中です。一人は50才代で、この方は最初自分で仕事の時間帯を午前か午後と決めて半日でしたが現在は全日来られています。二人目は30才代でこの方は最初一時間程度しか仕事が出来ませんでした。日数がかかりましたが、現在は全日来られています。今では二人共近々弊社の社員として雇用させて頂く予定です。

私は職親になり、はじめて精神障害者の方が非常に大勢居られること、また全員が一日でも早く社会復帰し、仕事に従事することを望んで居られることを知りました。それはいかに通院患者リハビリテーション事業が必要かを思うに、微力ながらご協力するにあたり次の様に思います。

一つ目は通院患者リハビリテーション事業という良い制度があっても事業所の方が、まだまだ知って居られないところも多く、また理解出来ないところも多い様に思います。

非常に厳しい経済状況の中、少数精鋭とはいえ通院患者さんも仕事によっては大変良い機動力となっ

てくれます。

会社、事業所等に幅広い方法で今まで以上に紹介し、良くなれば必ず来る社会復帰の足がかりとなって頂ける様、アピールすべきだと思います。

二つ目は精神障害者をお持ちの父母兄弟の方、色々ご苦労されていることと思いますが、我々協力事業所も職親会等を作り勉強し、少しでもお役に立てればと頑張っているところですが、その割には色々な会合、講演等の出席率、また事業所等のコミュニケーションが取れていない様に思います。我々職親と一体になってこそ今まで以上に何事も成果が上ると確信致します。

三つ目は社会保険庁、労働基準監督署等、行政機関等の関係をもう少し深く掘り下げて考えて頂きたいと思います。我々事業所は色々な面で板ばさみとなり業務遂行上、不合理な点も多々ある様に思います。この様な面が多ければ当然ブレーキがかかり、無くてはならないこの事業も足踏み状態では困ります。この様な事業こそもっと官民一体となって進行させるべきだと思います。

なにはともあれ通院患者リハビリテーション事業とは、精神障害者の方が一日でも早く社会復帰出来る最良最短の非常に良い制度の一つだと思います。

私は今までの経験上、事業所がこれといってやるべき事は余りありません。一般の方と同じ様に仕事を通じて接し話し、たまに意見希望などを聞いていく事が一番だと思います。投薬等の関係で幾分動作緩慢なれど最近は笑顔も多くなり、社員として雇用出来る日はまじかと確信しています。

今後ともご期待に添えるべく頑張りたいと思います。

兵庫県精神保健職親会のお知らせ

日時 H.11. 11. 12(金)～13(土)

場所 かんぼの宿 赤穂

講師 赤穂仁泉病院院長 深井光浩先生 他

詳しい内容については後日、ご案内します。

兵庫県精神保健職親会

事務局：

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-29

県立精神保健福祉センター内

Tel : (078) 511-6581

Fax: (078) 511-6585